

特集 「2016年度人工知能学会全国大会 (第30回)」

## 大会特別講演・基調講演・特別講演・招待講演

中山 功一 (佐賀大学), 植村 渉 (龍谷大学)

第30回となった2016年度は、例年の基調講演・招待講演に、特別講演・大会特別講演を加えた計4件が開催された。4件とも585名収容のメインホールがほぼ満席になり、立ち見が出るほどの大盛況であった。

大会初日となる6月6日のセッションでは、大会特別講演 (大会特別企画の招待講演) として、福島邦彦先生 (ファジィシステム研究所: 特別研究員) による「Deep CNN ネオコグニトロン学習」が発表された。1970年代からニューラルネットワーク研究をリードされている福島先生のご研究は、現代のDeep Learningへとつながる研究の理論的な基盤となっており、世界的に高く評価されている。スケジュールの都合上、他のセッションと平行開催であったが、近年のDeep Learningブームもあり参加者の関心も非常に高く、福島先生の研究への注目の高さに改めて驚かされた。



図1 福島邦彦先生 (ファジィシステム研究所)

2日目の基調講演では、マルチエージェントとゲーム理論の研究で日本をリードされてきた横尾真先生 (九州大学: 主幹教授) にご講演いただいた。最初に、ゲーム理論について、数学の一分野として始まった歴史から、現在の研究コミュニティにおける位置付けまで、「仲間 (シンパ) を増やしたい」というご自身の視点から紹介された。続いて、マーケットデザインについて、検索連動型広告に応用されている Vickrey 入札や、研究室配属に利用できる Deferred Acceptance メカニズムなどの例でご説明された。50年以上前の研究テーマから新しい研究成果を生み出されたご自身の経験から、斬新な視点で発想でき、怖いもの知らずの若手研究者には「ビギナーズラックはある」という力強いメッセージを発信された。



図2 横尾真先生 (九州大学)

3日目の特別講演では、1990年頃から音声翻訳など人工知能の最先端領域でご活躍された北野宏明様 ((株) ソニーコンピュータサイエンス研究所: 所長) にご講演いただいた。北野所長は、RoboCupの立上げメンバでもあり、グランドチャレンジとして参考にされたアポロ計画との対比から、RoboCupの意義を熱く語られた。RoboCupで培われた技術が、Amazon社の物流倉庫内の運搬ロボットや、ソフトバンク社のPepper、さらには、災害時の救助活動などに活用されていることを紹介された。また、途上国への支援活動として、マイクログリッドによるオープンエネルギーシステムなどを紹介された。最後に、バイオ分野の研究で利用するプラットフォームやメディカル人工知能への取組みを紹介され、新たなグランドチャレンジとして「2050年までに人工知能がノーベル賞級の発見をする」を掲げられた。



図3 北野宏明所長 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)

4日目の招待講演では、2003年に「位置情報ゲーム」「コロニーな生活」を発表し、現在では数々のスマートフォンゲームを生み出している馬場功淳様 ((株) コロプラ: 代表取締役社長) にご講演いただいた。前半では、パネルセッションとして登壇した有村博紀先生 (プログラム委員長) と4名の学生を交えて、機械学習の研究に取り組まれた学生時代から、起業して成功されるまでをお話しいただいた。修士1年生の頃のゲーム三昧の生活が、現在のコロプラの運営に役に立っているなど、学生達にも興味深い内容であった。後半では、登壇した学生や会場から受け付けた質問に、気さくにお答えいただいた。機械学習を研究してきたご自身の経験を踏まえて、人工知能に対するコロプラの姿勢などをご説明いただいた。



図4 馬場功淳社長 (株式会社コロプラ)